

こうふ じょう か まち 甲府城下町

こうふ じょうしゅ へんせん 甲府城主の変遷

一五九三〜一六〇〇
甲府城築城期 浅野家



あさの ながまさ
浅野長政
(1547~1611)
とよあきひでよし
豊臣秀吉の親族
とよみけ
豊臣家五奉行の
ひとり



あさの よしなが
浅野幸長
(1576~1613)
ぶんぶく
文武に優れ
ちゅうせんしゅつべい
朝鮮出兵で活躍

こうふ き ゆうめいじん 甲府へ来た有名人

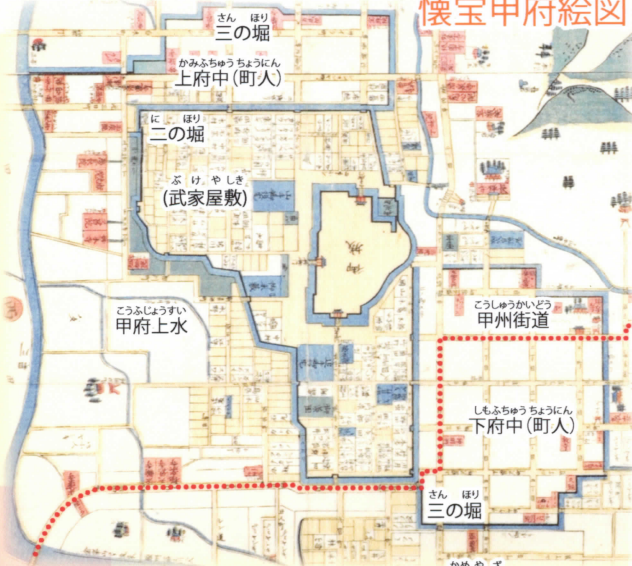
こうふ どうしんまつり
甲府道祖神祭の
えがき
幕絵を描きに
きました。



しょくだい
初代
うたがわひろしげ
歌川広重
(浮世絵師)



ごだいめ
五代目
いちかわだんじゅうろう
市川團十郎
(歌舞伎役者)



かいほうこうふえず
懷宝甲府絵図

一六〇〇〜一七〇四
徳川家及び徳川一門



ひらいわ ちかよし
平岩親吉
(1542~1611)
とくがわいえやす
徳川家康の
ゆうつ
有能な家臣



とくがわ よしなお
徳川義直
(1600~1650)
とくがわいえやす
徳川家康の九男、
おわりとがわいしだい
尾張徳川家初代



とくがわ ただなが
徳川忠長
(1606~1633)
にだいにしょうくひでた
二代將軍秀忠の
じなん さいきかづはつ
次男、才氣活発



とくがわ つなげ
徳川綱重
(1644~1678)
さんだいにしょうくひえみつ
三代將軍家光の
よなん
四男、



とくがわ つなとよ
徳川綱豊
(1662~1712)
ごだいにしょうくひなよし
五代將軍綱吉の
ようし
養子となり、
ろくだいにしょうくひえのぶ
六代將軍家宣



こうふ じょうしゅいめと
甲府上水跡
荒川から引いた
おいしい水



に ほりめと
二の堀跡
あきやま
(武家屋敷を囲む
のり
深い堀)

一七〇四〜一七二四
柳沢家



やなぎさわ よしやす
柳沢吉保
(1658~1714)
ごだいにしょうくひなよし
五代將軍綱吉の
じゅうしん だいにゅうす
重臣、大名となり
だいしゅうせ
大出世



やなぎさわ よしさと
柳沢吉里
(1687~1745)
がくもん けいのうす
学問・芸能好きの
めいじん
名君

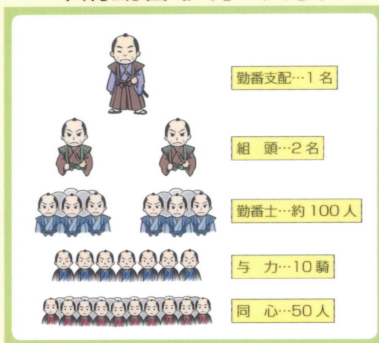
えど じだい こうふ じょう か まち こ え ど こうふ に ぎ 江戸時代の甲府城下町 ~小江戸甲府の賑わい~

こうふ じょう ちゅうしん ぶ そういしがき ちゅうしん さんじゅう ほり うちほり に ほり さん ほり
甲府城(中心部は総石垣)を中心に、三重の堀(内堀・二の堀・三の堀)にか
まられた城下町。東西約 1.4 km、南北約 1.9 kmの範囲に、1 万~1 万 4 千人ほ
どの人々が暮らしていました。

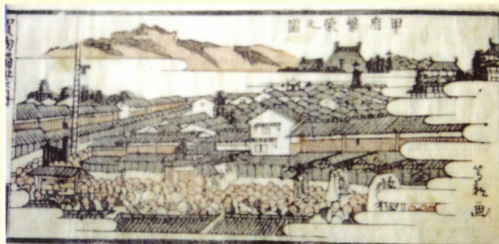
- 二の堀内には武士、三の堀の外には町人が住んでいました。
- 五街道の一つ「甲州街道」が通っていました。
(江戸から約 140 km。二泊三日の旅)
- 全国的にも古い甲府上水がありました。
(荒川から引いた美味しい水)
- 城下町のはずれには、お寺と神社が多いです。

こしょうがつ
小正月には
甲府道祖神祭り
で
賑わいました。

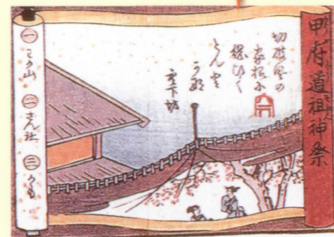
こうふ きん ばん おおて やまて 甲府勤番(大手・山手)



※大手・山手に勤番支配が各1名置かれ、交代で仕事をしました。



こうふ かいものりだあんない
甲府買物独案内



こうふ だいにしょうくひなよし
甲府道祖神祭図



はっぴん
発見された
えど じだい
江戸時代の生活用品

こうふ じょうかまち いせきしつとひん
甲府城下町遺跡出土品